

矢巾町の医療機関に感染予防物品を贈呈した水本理事長(左から2人目)、横田代表(右から2人目)ら



町内医療・老健施設へ寄付

やはば協働センター
やなぎプロジェクト 22カ所に感染予防物品

ための物品を寄付した。3月30日に矢巾町保健福祉交流センターで贈呈式があり、同町の医師代表として藤島幹彦三愛病院附属矢巾クリニック院長が目録を受け取った。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、日常生活を送るために欠かせない仕事を担っている医師に対して感謝と尊敬の思いを伝えようと実施。寄付物品は、やはば協働センターから消毒用エタノール(1千ミリリットル)とサージカルマスクの455セット、やなぎプロジェクトから光触媒コーティングのペーパーキャップ200個。

贈呈式には、高橋昌造町長、白澤勉県議が立ち合い、木村宗孝紫波郡医師会長らが同席した。贈呈者の水本理事長は「地域医療の一助になれば幸い」とあ

いさつし、目録を手渡した。

ペーパーキャップは、コロナ禍で利用が増えているペーパータオルやフィルムパックタイプのティッシュペーパーにかぶせるもので、やなぎプロジェクトが企画・販売。表面を衛生的に保ちながらペーパーを取り出すことができる。

横田代表は「コロナ禍の中で作った物であり、少しでも地域の役に立つことができれば幸い」と話していた。

寄付物品は、町内22の病院、診療所、介護老人保健施設に4月以降、順次届けられる。透析治療を行っている施設もあり、マスク、ガウン、キャップなどの感染予防物品の十分な確保が必要という。